

# 建築学科 専門教育科目の履修の流れ (建築システムコース)

## 建築学科 学習・教育目標

実践的な技術に支えられた自信と柔軟な発想力で国際社会に貢献できる建築家および建築技術者を養成することを旨とし、一連の専門科目を通して以下に示す“10の学士力”を身につけられるように教育することを目標とする。

①多文化／多分野理解能力 ②コミュニケーション能力 ③プレゼンテーション能力 ④タイムマネジメント能力 ⑤論理的思考力  
⑥自己理解力 ⑦問題発見／解決能力 ⑧企画力 ⑨調査能力 ⑩IT能力

## 建築システムコース 学習・教育目標

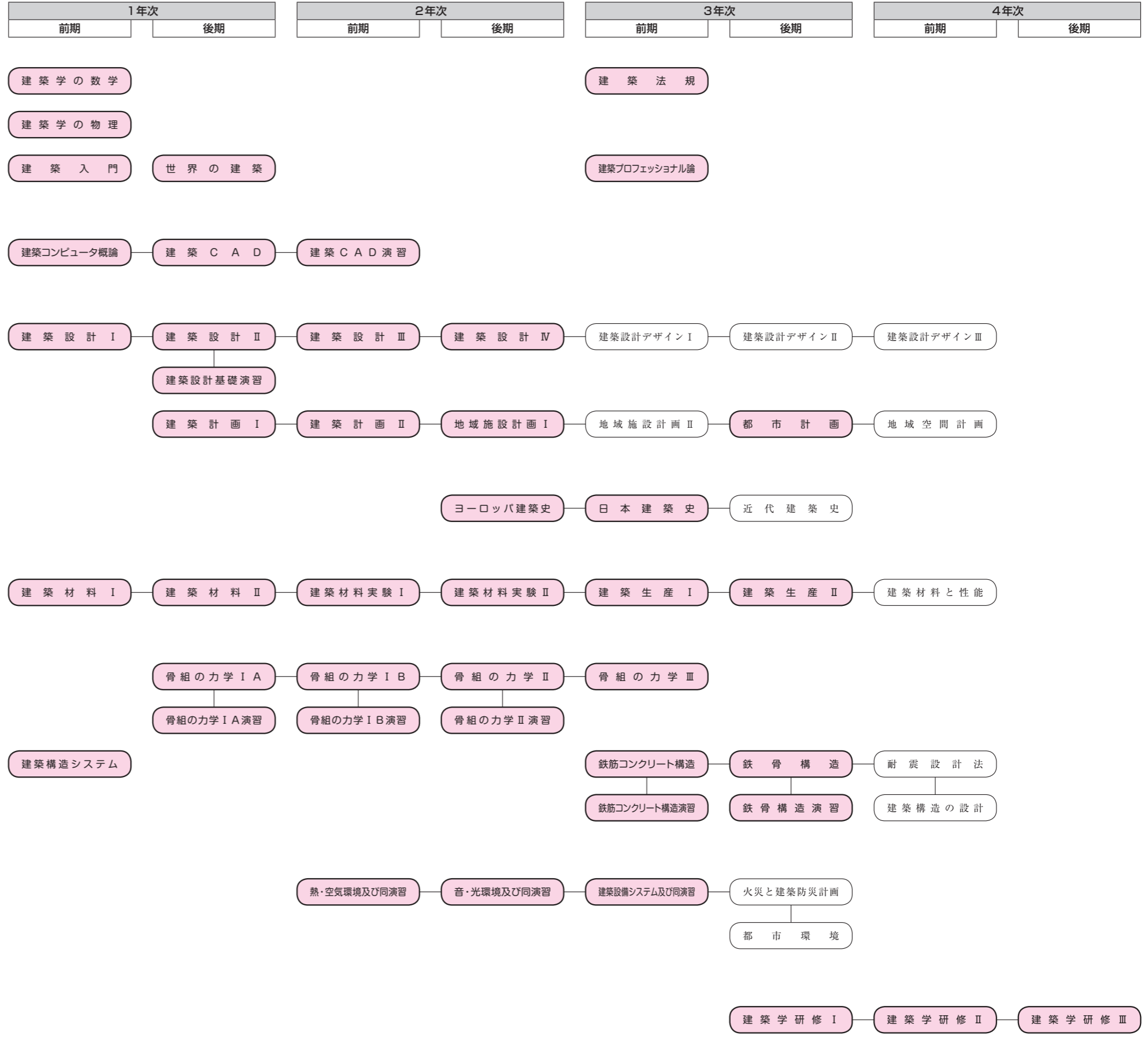
理数的解析力、問題発見力、調査力を伸ばし、実践的な視点で安全で快適な建物を企画・提案できる技術者を養成する。

必修科目

選択科目

## 科目群の学習・教育目標

建築学基礎	専門科目の修得に必要な数学や物理、建築に関する基礎学力を身につける。
情報	建築分野におけるコンピュータ利用法と建築 CAD による表現技術の基礎を習得する。
計画・設計	社会や地域の状況を理解しながら、建物の機能的要求や利用者の生活上の要求を充足するための計画理論と、設計するための手がかりとなり得る計画的知見を修得する。さらに、それらを踏まえながら、創造的に建築空間を設計・提案することができるデザイン力とプレゼンテーション力を身につける。
歴史	建築の歴史について、ヨーロッパと日本、明治以降の近代に分けて、主に様式史について学び、木の文化と石の文化についても考える。
材料・生産	建築物を構成する構造材料や仕上材料についての基礎的知識を習得後、それらを用いて実際に建築物を造り上げるために必要となる生産技術や生産管理技術について学ぶ。
構造	建物の安全性確保や機能維持を実現するのに必要な力学の基礎知識を修得する。また、各種構造や構法の最新技術について学び、近年多様化しつつある建築構造設計の原理を理解することができる。
環境・設備	建築における快適性と機能性の確保や、省エネルギーを実現するのに必要な基礎的知識を修得する。また、火災時の煙流動や延焼に対する備え、建築外部空間や都市環境に関する基礎的知識を習得するとともに、地球環境時代に建築が果たすべき役割を総合的に理解することができる。
研修	卒業研修の活動を通して企画力・提案力・分析力・表現力などの力を養い、広く社会に適用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身につける。



# 教養教育科目の履修の流れ (工学部)

## 共通教育センター 学習・教育目標

1. 自ら考えて行動できる市民として必要な教養（素養）を身につけること。
2. 工学およびライフデザイン学を学ぶための基礎的知識を身につけること。
3. 高等学校教育から大学教育に円滑に移行するため（できるだけ）の基礎学力を身につけること。
4. 高校教員免許状取得を目指す学生に必要な基礎的（専門）知識を身につけること。

必修科目   選択必修   選択科目

## 科目群の学習・教育目標

**地域・文化・社会**

現代の社会、および現代の文化（生活）や地域の諸問題を考えるための基礎的な視点や知識を身につける。

**自然と技術**

自然科学系の基礎的知識と、専門分野の知識を有機的に関連づける能力を身につける。

**言葉と表現**

専門課程において要求される言語の読解力、また社会に出てから要求される言語による自己表現と相互理解の能力を身につける。

**心と体の健康**

身体運動と心身の健康についての正しい知識と実践能力を修得する。またコミュニケーション、リーダーシップの向上に役立てる。

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
表象文化論		市民と法	市民と政治	日本国憲法	現代思想と科学	現代の倫理	現代の哲学
現代社会論		暮らしと心理学	産業社会と心理学	技術と倫理	情報社会とモラル	日本の近代思想	
地域防災減災論		ライフ・キャリアデザインI	情報化社会の経済	※C学科のみ必修 ライフ・キャリアデザインII	情報と職業		
地域とテクノロジー			東北文化史	職業指導（工業）			
	地球環境とエコロジー ※K学科のみ必修		科学論文読解	工業概論			
		日本語表現I	日本語表現II			ビジネスマナー	
		英語I A	英語I B	英語II A	英語II B		
		英会話A	英会話B	資格英語A	資格英語B		
		フランス語A	フランス語B				
		ドイツ語A	ドイツ語B				
		韓国語A	韓国語B				
		中国語A	中国語B				
		健康・運動科学実習I	健康・運動科学実習II	スポーツ科学実習			